

小笠原の外洋域に生息する鯨類

2017年6月4日におがさわら丸で行った西之島クルーズ。西之島へ行く道中にはマダライルカ、父島入港前にはザトウクジラを発見したとの貴重な情報をいただきました。小笠原では梅雨も明け、いよいよ夏本番を迎えようとしています。そうなるとウォッチングへ行く機会も増えるのではないのでしょうか？

島の沿岸部にはミナミハンドウイルカとハシナガイルカが周年生息していることが、既に確認されています。ただこの時期になると、外洋へ行くこともあると思うので、今回は外洋域に生息するイルカについての紹介です。

これまでに小笠原では24種類の鯨類が確認されていますが、主に外洋域でのウォッチングで出会える確率が高いのは、ハンドウイルカとマダライルカの2種となります。これまでの発見記録をまとめてみると、いずれも1年を通しての発見があり、夏頃に発見が多い結果となっています。

ただし、努力量が一定ではないので、この時期がシーズンとは言い切れません。文献によると、マダライルカの方がより温暖な海に生息していて、東部太平洋の沖合に生息するマダライルカの生息環境は、表面水温25℃以上で50mより浅いところにある水温躍層（ある深度を境に水温が急激に変化する層）で規定されるようです。

実際にマダライルカを発見したときの平均表面水温は、25.6℃（範囲：18.8-31.3℃）でした。もしかしたら、小笠原に生息するマダライルカも、水温や塩分濃度によって生息環境が決まっているかもしれませんね。

ちなみにザトウクジラの繁殖海域への来遊についてですが、水温が25℃を下回ると始まると書かれている論文もあります。水温などの環境要因と鯨類との関係。もう少し深く調べていく必要があるようです。

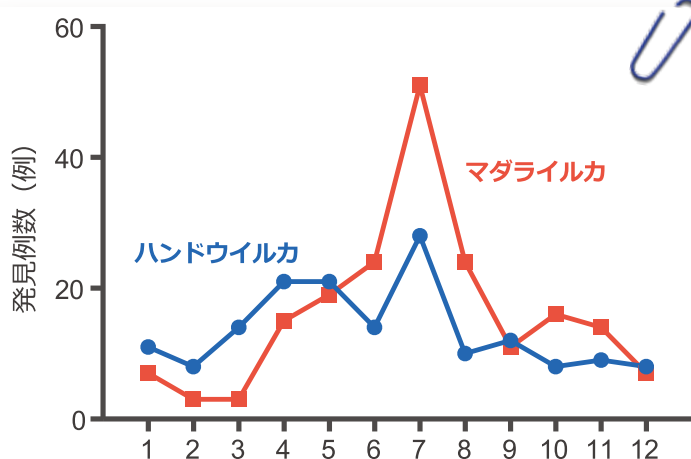


図1. ハンドウイルカとマダライルカの発見例数の月別推移

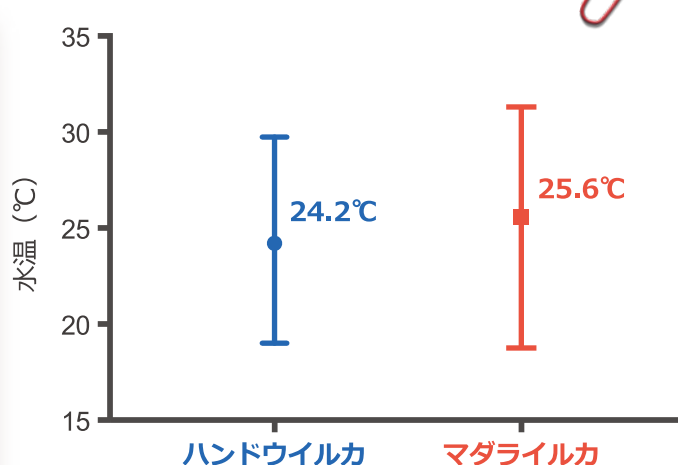


図2. ハンドウイルカとマダライルカの平均分布水温とその範囲

